

コミュニケーション、プレゼンテーションよりも重要な能力とは

名城大学 教授 雑賀憲彦

就職活動において、企業の人事担当者が大学生に求める能力で、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力がある。同じ日本人同士で意思疎通（コミュニケーション）ができないなんて考えられないことなのだが、敬語が使えないとか、身分の違いをわきまえていないとか、長幼の序がわかっていないなど、礼節面を含めたことが最近では意思疎通上の問題になるケースが多い。だからしっかりとした敬語を使い、規律正しい言動が鍛えられている体育会系の学生が優先的に採用されるのはそのせいである。

また、プレゼンテーション能力とは表現力であり、他社に対して商品説明する際の表現力は、会社の業績に直結するだけに重要なのはわかる。さらに上司への仕事の報告や状況説明などをする際にも適切な表現力がなければ、要領を得ない報告や説明となり、どこかの無駄に長時間かけた記者会見のようになってしまう。

しかし、そんな横文字の能力よりももっと重要な能力があるのではないか。経営の神様と言われた松下幸之助は、あるとき記者からの取材で「社会に出たらどんな能力が必要と思うか」と聞かれ、「そうでんなあ、人に好かれることでんなあ・・・」と答えている。「あいつは仕事はたいして出来んけど、何となくええ奴でついつい応援したくなるんや・・・」そんな周囲から好かれる人間になることだと言っている。なかなかの名言である。

また、ハーバード大学の経営学者のロバートカツは、次の3つの能力が必要だと言っている。1.テクニカルスキル（業務知識）2. ヒューマンスキル（対人関係能力）3. コンセプトチュアルスキル（概念化能力）である。1と2は周知の通りだが、3の概念化能力とは物事を概念的・抽象的に捉えて共有する能力である。取り組もうとする問題の本質を考えたり、チームに対して目的目標、組織が存在する理念を示したりする際に必要な能力ということができる。彼はこれらの3つの能力は社会の経験年数に伴い比重が変わっていくといっており、なるほどとうなずける。

私は先の2人の偉人に加えて、「理解力」という極めてシンプルな能力をあげたい。理解力とは書いてある内容がわかる、相手の言っていることがわかる、という単純なものである。しかし、社会においてこれが乏しいと上司の指示が100%理解できず、70%や80%の結果しか出せなくなる。これではいつまでも頼りにならない部下のままだ。社会において仕事は一番重要な要素である。その仕事でうまくいくにはまず理解力であろう。この能力を高める

ことも大切にしてもらいたいものである。

(1053 文字)